

君はアリ？それともキリギリス？

三年生の教室のホワイトボードに、「くしず」と書かれています。この言い方は、小中学生が書いた話したりする中によく見られます。例えば、「持ち物を確認しず、家を出てしまった。」という具合です。皆さんも当たり前のように使っていませんか。

これは間違いだとは言えません。なぜなら、名古屋弁では「くしず」と言うからです。（東濃地方は愛知県に接していますから、当然影響を受けていますよね。）方言は大切な地域文化ですので、それを否定する気はありません。むしろ、大切にしておいてほしいなあとは思っています。

しかし、知っておいてほしいのです。一、二年生の皆さんには難しいことかもしれませんが、正しくは「せす」というのだと、今は覚えておいてください。

「する」という動詞は、否定の意味を表す助動詞「ない」を下につけるとときには、「しない」というように未然形の「し」に変わります。「帰ってから勉強する。」に「ない」をつけると、「帰ってから勉強しない。」になるでしょう。

ところが、同じ否定を表す別の助動詞「ぬ」をつけるのと、「帰ってから、二時間勉強せぬ。」となりますよね。「勉強しぬ」という言い方はだれもしないはず。助動詞「ぬ」の連用形が「ず」ですから、「勉強せず」となるわけです。

教科書にはそれがしっかりと書かれています。どの学年の教科書にも後の方に「口語動詞活用表」というものがあります。その中のサ変格活用「する」の欄を見ると、備考欄に「未然形『せ』は『ぬ』に続く。」と書かれています。それです。

ちなみに、「勉強せず」では文は終わりません。終わるなら「勉強せぬ」です。実は「ず」は連用形であり、連用形は、さらに文を続けるときに使います。「帰ってから勉強せず、ゲームをするつもりだ。」という具合です。この連用形の働きを「連用中止法」と言います。

おっと、難しくなったかな。方言は大切にしながら、正しい文法も覚えていく：：これが勉強ですよ。ゲームばかりしていたら、「アリとキリギリス」の「キリギリス」になってしまおうよ！

（七月三十一日 記）